

お
ぼ
ん

仏の救いの
はたらきが
私の声となった
お念仏

Our voices saying the Buddha-name nenbutsu is
the Buddha's salvific working for our benefit.

真宗教団連合2024年法語カレンダーより



御同朋の社会をめざす運動(実践運動)
兵庫教区委員会

『私のお念仏ねんぶつを待っててくださる阿弥陀あみださま』

お盆の季節がやってきました。私が僧侶そうりょになり初めてお盆参りをしたのは、今から十八年前、二十二才の頃です。僧侶になり、自坊じぼうに帰ってきた次の日に早速、ご門徒もんとさんのお宅にお参りに行きました。

初めてのお参りはお寺の隣のお宅で、当時、七十五才くらいの女性のご門徒さんが着なれない衣と袈裟けさをつけた私を出迎えてくださりました。緊張と不安の中、おつとめしたのですが、終わる頃に「あれ、なにかおかしいな」と思い、経本きょうぼんを確認するとページの上の段しか読んでおらず、下の段を飛ばして読んでいることに気づきました。ご門徒さんは「私もいつもとお経が違うなと思ったのよ」とおっしゃり、微笑ほくそされました。

改めて最初から一緒におつとめし、昨日、僧侶になって帰ってきたことを話すと、「そうか、良かったね。ぼんもお坊ぼうさんになってくれてありがとう」と喜んでくださりました。

私は四人兄弟の三男で、後継ぎでもないのですが、その頃、「僧侶になりたい」と特に思っていました。だから、僧侶になるのもその時は乗り気ではなく、兄弟の中では一番遅く僧侶になりました。自分自身、僧侶になると嬉しさと感動もあったのですが、いざお礼を言われると、恥ずかしさと申し訳なさでいっぱいでした。

ご門徒さんは、私を赤ん坊の頃から知っていて、「この子もお坊さんになるのだから。お念仏申す身になって欲しい」といつも温かく接し、育んでくださっていたのだと思います。

「弥陀成仏みだじょうぶつのこのかたは いまに十劫じゅうこくをへたまえり」

阿弥陀さまは私をお念仏する身にするために願いをたてられ、常にはたらいてくださいます。それなのに、阿弥陀さまが仏と成られて十劫というはかりしれない時が経っているのは、私が阿弥陀さまに背そむいてきた時間ということですね。阿弥陀さまは私がお念仏を申すのをずっと待ってくださっていたのです。阿弥陀さまはお念仏する私をご覧になって一番喜んでくださるお方です。



氷上東組 明光寺 藤井大顕